

全十巻よりなる『東京芸術大学百年史』のうち、音楽学部に関係ある巻としては、三年前、すなわち東京音楽学校創立百周年の年に出された『東京音楽学校篇第一巻』が最初の巻でしたが、今回の『演奏会篇第一巻』はそれに続くものです。旧奏楽堂が誕生してからちょうど百年目にあたる今年、この巻が刊行の運びに至ったことはまことに有意義なことで、喜びに堪えません。

『東京音楽学校篇第一巻』は当時の東京音楽学校を支えた教育理念の展開を裏付ける資料集でした。今回の『演奏会篇』は、いわばその具体的な成果の集大成といえるもので、ここに記述されている記録を順を追ってたどっていくと、明治二十年代にささやかに始められた当時の演奏会が、次第に規模が拡大され、内容が充実し、遂には今日われわれが考えているような演奏会に発展していく過程を目の当たりに再現することができます。例えば、明治三十年代、アウグスト・ユンケルの指導のもとに東京音楽学校管弦楽団が急成長していく様子が記載されていますが、今ではその後身である東京芸術大学管弦楽研究部オーケストラがこれまでの多くの人々の音楽に対する努力と情熱を人々に伝え続けているのです。

また本巻には演奏会批評、写真、唱歌歌詞選などの関連資料も豊富に付せられており、明治以来の日本における西洋音楽の受容史を研究しようという人々にも貴重な資料となるものでしょう。

なお、本書の編集に多くの時間と労力を費やして下さった編集委員の方々、出版に際して並々ならぬご助力をいただいた音楽之友社の浅香淳社長に心からの御礼を申し上げます。

平成二年七月

東京芸術大学音楽学部長 原 田 茂 生